令和８年度

# 大阪大学
# 総合型選抜・学校推薦型選抜
# 解答例又は出題の意図

小論文（医学部保健学科

検査技術科学専攻）

**解答例又は出題の意図**

**問題1**

問1　他の臨床検査技師の短所を言うことは、昔から賢人たちが厳しく戒めてきた行為であり、その人の生涯を損なう可能性があるため。

問2
(1)測定する機器が異なる。また同じ機器でも新しい/古いという違いがある。測定する検査技師の能力に違いがある。
(2)他の施設で測定した結果が間違いというのではなく、検査結果が異なる場合の可能性を丁寧に説明し、その患者にとってベストとなる診断結果を伝える。決して、前医の病院の悪口を言わない。

問3　ベテランの臨床検査技師は、多くの失敗や困難を乗り切ってきた経験があるので、それに敬意を示す。新人の臨床検査技師は慣れていなくて失敗をするかもしれないが、将来があるのでその道を潰してはならない。

問4　AIは知識の正確さ、情報回収の速さでは、はるかに人間を超える。しかしAIが認識した初期情報が間違っていたとすると、誤った判断をする可能性がある。さらに経験したことのない未来の予測は困難である。

**問題2**

　新しい検査の導入には費用がかかるので、必ずしも病院経営にとってプラスかどうかわからない。しかし、患者にとって体に苦痛を伴う検査よりも、非侵襲的な検査の方が好ましいのは自明の理である。また既存の臨床検査法で十分カバー出来ている分野に新しい検査法は必要ない。まず重要なことは、臨床の場でどのような診断法やバイオマーカーが望まれるのかという臨床ニーズをしっかり把握することである。そして技術的にその検査法が可能なのか異分野の研究者と議論することも必要であろう。現在の医療において、情報工学の技術を利用することは必須と言えるかもしれない。
　患者数が多い病気に対する検査法を開発することの方が、病院経営や医療界への貢献度が高い。新しい検査において、その正確性は当然のことであるが、誰が行っても同じ結果が出るという再現性や測定に時間がかからないという簡便性も重要である。これからの臨床検査技師は、単に検査業務を行うだけでなく、新しい検査法を開発したり、医師と共にベッドサイドで活躍できる人材が望まれるのではないかと思う。

（配点）
問題1（25 点）　問1：5 点、 問2：各 5 点、 問3：5 点、 問4：5 点
問題2（25 点）

（出題の狙い）
受験者の英語や数理学的な能力は共通試験で評価されているので、この筆記試験では受験生の創造力を問う。正解は必ずしも1つではなく、柔軟でかつ論理的な解答を高く評価する。模範解答とは真逆な内容でも、筋が通っていれば評価する。